

平成30年度 学校評価自己評価表（最終）

ミッション ○東北の中心校・リーディングスクールとしての誇りと自覚をもつ学校 ○保護者や地域から信頼を得る学校	ビジョン 学校教育目標 「夢を持ち 志を立て やるべきことをやりきる生徒の育成」 - 知・徳・体の育成の土台になる、『挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり』の精神が貫かれた学校 - 【重点】不登校生徒の減少	三次市立十日市中学校
---	---	------------

評価計画					自己評価			学校関係者評価			改善計画					
b 中期経営目標	担当	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標達成率 (全国平均)	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
自信と意欲	教務 生徒会 総務	自己有用感の高い生徒の育成【自己有用感】	・総合的な学習の時間を中心に地域貢献・異学年交流を実施する。	・「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	95% (90%)	93.8% (90.2%)	91.8% (90.2%)	96.6%	B	各学年の肯定的評価の割合をみると、1学年91.8%、2学年83.2%、3学年95.3%であった。 中間申告と比較しても、ほぼ同程度の割合であった。大きな行事が無い時期の調査であることをふまえると、日常生活の中で成功体験ができていないと評価できる。	○			・自分の力を生かしながら責任をもって充実した学校生活を送っていることが伺えます。	次年度も、大きな行事を節目として、生徒が日常生活の中で成功体験を実感できるように評価や声掛けを続けていく。	
			・1人1役（係・委員）の仕事の意欲をもって実行できるよう、生徒相互による評価をする。													・地域との連携をしたボランティア活動を推進する。
			主体的な学びによる、学力の定着と向上【主体性】													・基礎基本を徹底し、各種学力テストで平均点以上を目指す。
・生徒が計画的に取り組める学習課題の設定をする。	・「夢中になった、勉強がおもしろいと思った、やる気が出た、という記憶に残っている授業がありますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	70% (69%)		75.4% (68.0%)	69.8% (67.9%)	99.7%	B	各学年の肯定的評価の割合をみると、1学年74.5%、2学年63.0%、3学年71.9%であった。 中間申告と比較すると、2学年で約10ポイント下がっており、他学年と差がある。学力は全体的に高いが、授業に満足感を持っていない傾向がある。生徒との対話や主体的な活動のある授業づくりを進めたい。	○			・前期の結果と比較し2年生の-10ポイントの下落が気になりました。 ・全職員による共同学習を意識した授業づくりの取り組みが望まれます。				
規律と安心	生徒指導部	いつでもどこでも適用する、主体的な行動・態度の徹底	・学級活動・生徒会活動の両面から、自ら進んで行う「あいさつ」「清掃」「整理整頓」の取組をしていく。	・「あなたのクラスでは、みんなが掃除当番や係の仕事を、責任をもってしていますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	90% (78%)	87.8% (79.5%)	79.3% (79.5%)	88.2%	B	各学年の1月の肯定的評価の割合をみると、1学年76.4%、2学年80.3%、3学年81.3%であった。 7月の中間申告と比較すると、全学年とも「責任を持ってやる」という割合が低下している。生徒会の美化委員会等と連動させながら、責任を持って主体的に取り組む指導をしていく。	○			・教室・廊下等掃除がよく行き届いており清潔感を感じました。数値は生徒は前期に比べ係活動等にマンネリ化を感じた結果かと思いました。	日常的な学級活動や生徒会活動において、生徒自身が活動の意義や自分の役割を理解し、責任を持って取り組む具体的な姿をイメージさせ、主体的な取組となるような指導をしていく。	
			共感的な人間関係の育成	・生徒との丁寧な対話と指導を行う。(テイリーノート、個人面談、家庭連携) ・いじめの早期発見、対応 ・カウンセラーの周知と活用（不登校の減少）	・「つらいことや、こまったことがあったとき、なんでも本音で相談できる友だちがいますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	90% (82%)	88.3% (82.6%)	86.5% (82.6%)	88.7%	B	各学年の1月の肯定的評価の割合をみると、1学年80.9%、2学年88.2%、3学年90.6%であった。 7月の中間申告と比較すると、1学年の肯定的な割合が約8ポイント大幅に低下している。教育相談を個別に随時実施したり、生徒間で意見交換ができる班長会等を活用して学級集団づくりを推進していく。	○			・重点課題である不登校対策については引き続き保護者の理解を求めつつ関係機関と連携し個のニーズを把握し「まず家から出る」方策を考えてほしい。 ・各種アンケートの実施や個別的教育相談等を通して、生徒や保護者の思い等を把握し、課題を明らかにしながら、互いに肯定的に認め合える集団づくりに向けて 教育的な支援や指導を行う。	
			生徒会活動による絆づくりと居場所づくり	・生徒会を中心に、学級や生徒個人の存在感を高める取組を行う。(クラスの紹介ポスターの作成、誕生日カードの紹介、ありがとうカードの掲示等)	・「今のクラスは好きですか」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	80% (77%)	88.6% (85.4%)	87.3% (85.4%)	109.9%	A	各学年の1月の肯定的評価の割合をみると、1学年87.1%、2学年83.4%、3学年85.8%であった。 7月の中間申告と比較すると、全学年とも割合がやや低下している。今後とも、授業や学級活動を通して、お互いの良さを肯定的に認め合える学級集団づくりを推進していく。				・体育祭・文化祭の学校行事での生徒会を中心とした活動の盛り上げを強く感じました。 前期に引き続き達成度結果から「学級での居心地のよさ」を感じました。 日頃の学級・学年経営の成果と感じました。	授業や学級活動はじめ、生徒会主導の縦割り集団を活用した全校学活等を通して、お互いの良さを肯定的に認め合える集団づくりを推進していく。
健康	生徒指導部	生活リズムの確立と食育の推進	・委員会を活用した、食に関する指導を行う。	・「朝食を毎日食べていますか」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	95% (89%)	96.7% (89.3%)	90.6% (89.3%)	98.5%	A	各学年の1月の肯定的評価の割合をみると、1学年94.5%、2学年88.2%、3学年89.1%であった。 7月の中間申告と比較すると、2年生、3年生の割合が6～10ポイントと低下している。今後とも、生徒の生活アンケートや保健室利用状況等を通して実態を把握していく。さらに、食生活をはじめ生活改善に向けて家庭とも連携しながら取り組んでいく。	○			・朝食を摂らずに登校する生徒が「食べない」のか「食べられない」のか家庭の経済的背景も含めた実態を把握し保護者との連携及び指導が必要だと思います。場合によっては民生委員等他機関との連携も必要かと思えます。	今後とも、生徒の生活アンケートや保健室利用状況等を通して実態を把握していく。さらに、食生活をはじめ生活改善に向けて家庭とも連携しながら取り組んでいく。	
			生活三分割による生活リズムの見直しを図る。	・「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	80% (78%)	80.4% (78.8%)	78.9% (78.8%)	99.5%	A	7月、1月の結果をみると、全学年を通して約2割の生徒が就寝時刻が不規則である。今後とも、生徒の生活アンケートや保健室利用状況等を通して実態を把握していく。さらに、食生活をはじめ生活改善に向けて家庭とも連携しながら取り組んでいく。	○			・課題のある生徒への本人からの聞きとりと指導。保護者への協力依頼に引き続きかと思えます。		

【自己評価 評価】  
 A：100≦（目標達成）  
 B：80≦（ほぼ達成）<100  
 C：60≦（もう少し）<80

【外部評価】  
 A：自己評価は適正である。○：自己評価は適正でない。  
 B：（できていない）<60  
 C：わからない。